

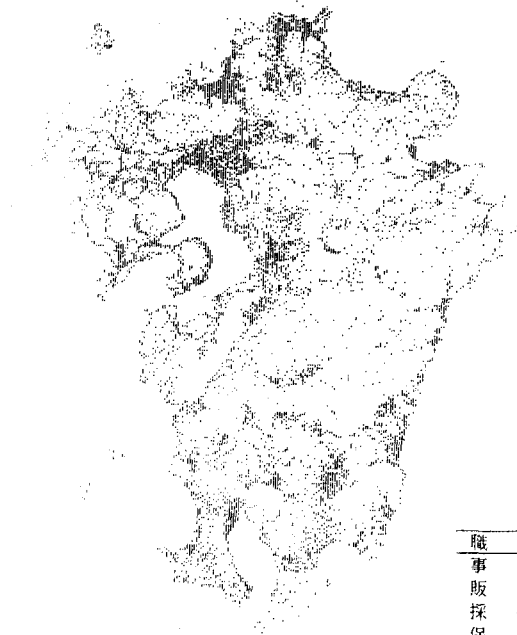
地方商圈の分布モデルについて

九州工業大学 工学部 学生員 ○逸見 浩二
九州工業大学 工学部 学生員 福島 賢一
九州工業大学 大学院 学生員 伊達 和寛
九州工業大学 工学部 正 員 佐々木昭士

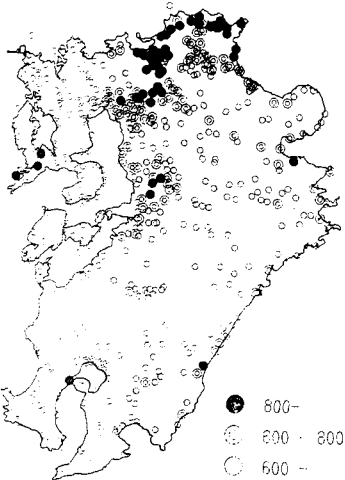
1 はじめに 近年、都市圏のみでなく地方においても生活水準の向上にともなって商業機能は産業としての重要性を増している。また、物流の末端機能や人の流れとして交通需要に大きい影響を与えているが、従来、商圈の分析に関してはアンケート調査などのような個々の商圈に関する調査研究が成されている。最近のような広域交通を検討し、市町村の将来計画を立案する場合などには広域的な視点に立った商圈の検討が望まれる。

本研究は商業統計並びに国勢調査などの既発表の資料、とくにメッシュデータから商圈の分析を検討したものである。

2 メッシュデータによる商業機能の分布 最近、通産省から商業統計のメッシュデータが磁気テープとして提供されるようになった。このデータを基に空間分布の分析方法の検討を行うにあたり、昭和63年の第三次地域区画（基準地域メッシュ）を資料として採用し、商業機能の空間分布を分析することにした。第1図にはその一例を示し九州地方（沖縄を除く）の基準地域メッシュの商店数をプロットしたものである。標高、土地利用（いずれも国土地理院の国土数値情報）についても同様な分布をプロットして商業機能分布と比較を行った。



第1図 九州地方の基準地域メッシュの商店数の分布(沖縄を除く)



第2図 九州地方の所得の分布(単位：万円)

第1表 所得分布の重回帰分析結果

職 業	平均値	標準偏差	標準偏回帰係数	t 値
事 務	11.8	3.9	0.516	0.082
販 売	10.1	3.7	0.313	0.104
採 掘	0.3	2.1	0.225	0.139
保 安	1.2	1.9	0.137	0.299
所 得	579.2	164.6		

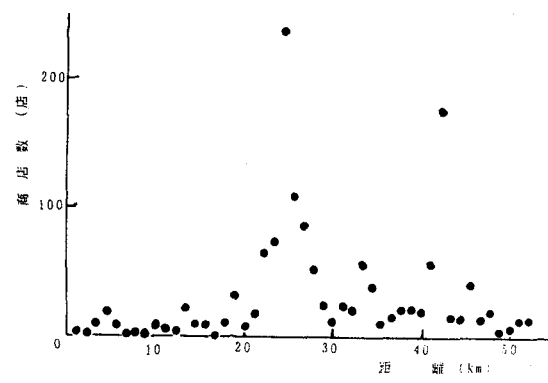
重回帰係数 R: 0.826

その結果、都市の分布を示す図として有効であり、九州地方の都市機能の空間分布を明瞭に識別することができる。

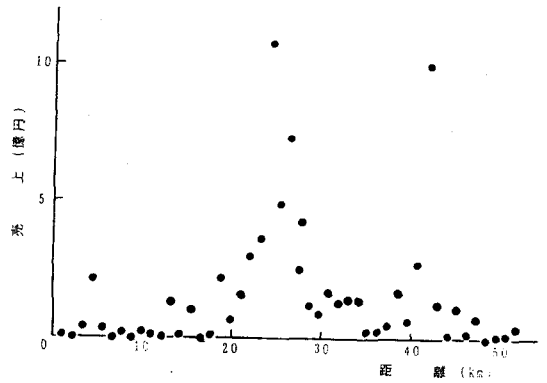
第2図は九州地方の各市町村の平均所得分布を示したもので、北部九州が比較的高い所得を示し、この分布は商店数の分布を示す第1図ときわめて類似した分布を示している。さらに、この所得分布を重回帰分析し、その結果を第1表に示す。表によると、業務販売両職業の構成率の高い市町村の所得が高く、それだけ購買力の強いことを示している。

第3～6図は第1図に示したような商業分布について東西方向の断面分布を示したものである。第3図は商店数で、第4図は同じく年間販売額を示したものでほぼ類似した分布を示している。また、第5図はそのメッシュ市町村人口を、第6図は平均所得を示したものである。

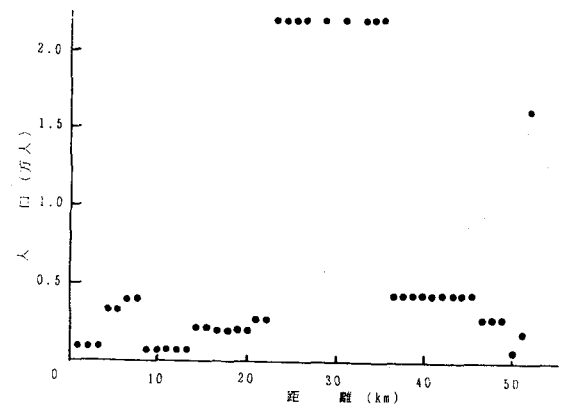
3 分布による地方商業の特徴 市町村そのものが地形の制約を受け離散的に分布していることに由来し商業機能の空間分布も複雑である。単一の式による表示よりは実態に即した分布に頼らざるを得ないようである。



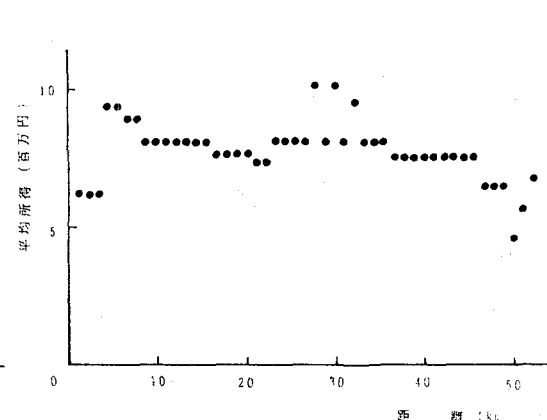
第3図 商店数の断面分布



第4図 年間販売額の断面分布



第5図 市町村人口の断面分布



第6図 平均所得の断面分布

参考文献 1) 佐々木、島田：日本都市学会報告要旨(1990) 2) 通商産業調査会：昭和63年商業統計メッシュデータ磁気テープ利用のしおり(1989)